

第 18 回 学 会 大 会 報 告

第18回日本レクリエーション学会大会は、昭和63年8月22日(月)に、新装オープン間もない函館ハーバービューホテルを会場にして開催されました。大会に先立ち、前夜には懇親会が開かれ、函館市の御協力も得て、なごやかな会員相互の交流が行われました。

昭和63年5月には、学会事務局の移転や理事会の改組があり、新役員の下での初めての学会大会でしたが、会員の皆様方の御協力により、無事開催することができました。

遠隔の地であったにもかかわらず、10題の研究発表と2時間にわたるシンポジウムを中心とし、積極的な参加者の方々に支えられて全てのスケジュールを終了しました。

研究発表およびシンポジウムの演題および演者は次のとおりでした。

(事務局)

研 究 発 表

A-1 子どもの遊びの実態について

(浜松短期大学) 大 平 滋

A-2 リズムあそびを通しての対人認知発達について

(第1保育短期大学) 鈴 鹿 信 子

A-3 体力レベルと日常生活関連要因の関係について

(横浜国立大学教育学部) 海老原 修

A-4 事務職員のレクリエーション活動の疲労回復効果に関する研究(I)

(日本体育大学) 伊 藤 順 子

A-5 学校キャンプ実施期間についての基礎的研究II

(大阪体育大学) 福 田 芳 則

A-6 リゾート開発の現状と課題

(住環境計画研究所) 村 越 千 春

A-7 社会体育「専門職」の指導者マーケットに関する研究

(大阪体育大学) 原 田 宗 彦

- A-8 フライングディスクの普及と発展に関する研究
(上智大学) 島 健
- A-9 ソビエトの社会人レクリエーション制度成立過程に関する研究
(東海大学) 里 見 悦 郎
- A-10 ホノルルマラソンフィニシャー日米比較研究
(大谷女子大学) 山 田 文 男

シ ン ポ ジ ュ ウ ム

▶ テ ー マ ◀

「レクリエーション研究の今日的課題」

- S-1 日本人のレクリエーション行動の現状と解析
(筑波大学) 松 田 義 幸
- S-2 比較文化論的見地からみたレジャー・レクリエーション
(北海道教育大学) 村 山 紀 昭
- S-3 これからのレクリエーション研究・政策の課題
(広島大学) 荒 井 貞 光
- 総 合 司 会
(関東学院大学) 鈴 木 秀 雄